

神奈川県立ビジターセンター

令和7年度年間実績報告書



令和8年4月

公益財団法人 神奈川県公園協会

目 次

1	指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等	3
2	施設の維持管理	3
3	利用促進のための取組、利用者への対応	7
4	事故防止等安全管理	18
5	地域と連携した魅力ある施設づくり	22
6	節減努力等（記載なし）	25
7	人的な能力、執行体制	25
8	財政的な能力（記載なし）	26
9	コンプライアンス、社会貢献	27
10	事故・不祥事への対応、個人情報保護	31
11	これまでの実績	32
12	その他	32

1 指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等

(1) 指定管理者としての基本姿勢及び委託の考え方

ア 指定管理業務全般を通じての総合的な運営方針、考え方

■第3期の総合的な運営方針と考え方

- ・管理運営方針を「丹沢の自然と人をつなぐ架け橋 ビジターセンター ～地域とともに丹沢の魅力を次世代につなぐ～」とし、適切に管理運営を行った。
- ・公の施設としての公共性、平等性等を踏まえた施設運営を行った。
- ・公の施設として常にコスト意識を持ち効率的・効果的な管理運営に努めた。

イ 業務の一部を委託する場合の考え方

- ・法律などで定められた点検業務、専門技術や資格等を要する業務については外部に委託し、適正な維持管理に努めた。

2 施設の維持管理

(1) 施設の特性を踏まえた維持管理

施設及び設備の清掃業務、保守点検業務、受付業務、警備業務等についての実施方針

ア 維持管理の実施方針

- ・誰もが安全で快適にご利用いただけるよう、清掃・保守点検等の施設管理、受付対応、保安警備業務等を適切に行うとともに、脱炭素など、環境にも配慮した維持管理を行った。
- ・貴重な資料のアーカイブ拠点としての役割を自覚し、資料等の適切な保管・管理を行った。

イ 各 VC の具体的取組

(ア) 秦野 VC

■清掃・保守点検等の施設管理

- ・清潔で安全な展示室・事務室を維持するため、毎日の清掃と年2回の床定期清掃を実施した。
- ・窓ガラスの清掃は公園と協力し、委託により年1回実施

- ・開館前・閉館後に展示室内の点検を実施し、軽微な破損は直営で迅速に対応し、利用者に安全で快適な利用空間を提供

- ・法律で定められたエアコンフロンの点検を公園と協力し、委託により実施

■受付

○笑顔の対応

- ・受付カウンターは、情報を求めて立ち寄る場所であり、施設の顔として重要な場として捉え、おもてなしの心を持ち笑顔で対応

○適切かつ素早い情報提供

- ・朝礼などによる最新情報の共有、資料の取り出しやすさに配慮した適切な収納及び配架等により、多様な利用者の興味等に応じた適切かつ素早い情報提供
- ・よく聞かれる情報(バス時刻表等)は目立つところに掲示し、利用者の利便性の向上を図るとともに、

受付業務を効率化

○ユニバーサル対応・デジタルツールの活用

- ・デジタルツールも活用しながら、年齢、性別、障がいの有無や国籍等に関わらず、誰もが安心してご利用いただけるユニバーサルでおもてなしの心をもった対応
- ・手話講習会を受講した職員による対応
- ・耳マークの掲示と筆談セットの設置
- ・コミュニケーションボードの配備
- ・ピクトグラムを用いた掲示
- ・自動翻訳機やアプリを活用
- ・往復はがきに加え、メールによるイベント申込受付

○落とし物対応

- ・遺失物に関しては、管理台帳によりスタッフ間で情報を共有し、「施設占有者のしおり（神奈川県警察本部）」に則り適切に処理

■備品・収蔵物等の管理

- ・事務備品は、物品管理責任者を指定し、備品管理簿等で適切に管理
- ・展示物は滑り止めをつけるなど、地震等による転倒落下を防止
- ・剥製、岩石など貴重な標本を適切に維持するため、標本の清掃など、標本の取扱いに熟練した職員が適切に管理
- ・新たな剥製・標本類の作製や自主財源も活用した閲覧図書の充実

■保安警備業務

- ・開館中は職員が巡視し、日常的に利用者への声かけ等を実施。秦野VCでは、秦野戸川公園と協力して防犯カメラによる監視を実施
- ・持ち運びが容易な展示品は目の届く範囲に配置し、その他剥製・岩石等貴重な展示品については構造物に括りつけるなどの展示物の盗難防止策を実施
- ・閉館前の点検にあわせ、館内に利用者が残っていないか確認
- ・閉館時は戸締りを徹底
- ・夜間機械警備を秦野戸川公園と連携して実施
- ・異常時は県自然環境保全センターへ速やかに連絡し、必要に応じ、警察・消防へ連絡

■業務の効率化と高品質な維持管理

○独自に作成した維持管理マニュアルによる維持管理水準の担保

- ・どの職員が行っても適切な維持管理水準が担保できるよう、これまでのノウハウを整理した独自のマニュアルを作成・運用

○デジタルツールの積極的活用

- ・自動翻訳機等のデジタルツールの積極的な活用等により、業務の効率化と高品質な維持管理を両立

○県との緊密な連携による計画的な修繕

- ・施設の劣化状況や補修の優先順位等を県自然環境保全センターに報告

○当協会のスケールメリットを活かした維持管理

- ・コピー用紙やトイレトペーパー等を都市公園等と集約発注することにより、費用の節減と効率化

■環境に配慮した維持管理

- ・電力は、再生可能エネルギーを活用した電力(再エネ率 100%)を利用

- ・LED 照明を利用
- ・秦野戸川公園と共用する形で、電気自動車を導入

(イ) 西丹沢 VC

■清掃・保守点検等の施設管理及び植物管理

【清掃】

○トイレ・浄化槽・受水槽等

- ・登山口に近接していることから、出発前や帰宅時に多くの方がトイレを利用するので、利用者に気持ちよく利用していただけるよう毎日の清掃に加え、繁忙期には、1 日に複数回の清掃を実施
- ・男子トイレ小便器に自動洗浄装置を設置したことで、衛生環境の向上と清掃を効率化
- ・浄化槽は年 2 回委託により清掃
- ・井戸ポンプ及び受水槽の日常清掃(ゴミや落ち葉の除去等)を随時実施

○展示室・事務室

- ・清潔で安全な展示室・事務室を維持するため、毎日清掃
- ・展示室や談話室の清掃に当たっては、
- ・窓ガラス清掃を実施
- ・ペレットストーブの清掃は、毎回使用前に実施

○靴洗い場及び安全な飲料水の提供

- ・靴洗い場については、利用者が気持ちよく利用いただけるよう随時清掃
- ・安全で美味しい井戸水を提供できるよう、塩素供給用のケミカルタンクを月 1 回点検・清掃

【保守点検】

○建物・展示室・事務室

- ・建物については、外壁、内壁等の状況を監視し、不具合を発見した場合は、速やかに県自然環境保全センターに報告
- ・開館前・閉館後には点検を実施し、軽微な破損は直営で迅速に対応

○電気設備

- ・電灯設備及び通信設備は日々の業務や毎日の点検の中で異常の有無等を確認し、異常時には、早急に補修等の対応をし、利用環境を適切に維持
- ・職員による漏電ブレーカーの簡易点検を毎月行い、漏電による事故防止を図った

○給排水設備

- ・飲料水用の井戸水は、残留塩素を測定（週 1 回）し、測定結果を踏まえて必要に応じて補充した。
- ・浄化槽は、委託により年 6 回点検を実施
- ・給水ポンプの音や振動、浄化槽の水位や臭いの確認などを適宜職員が実施し、異常時は専門業者へ相談し、対応
- ・停電による給水ポンプ停止時にトイレが利用不可とならないように、水を汲み置き
- ・特に給水管は老朽化が進んでいるため、漏水のこまめなチェックと迅速な補修を実施

○消火設備等



【植物管理】

- ・VC 周囲の植栽は、利用者の目に入る最初のものであり、VC を安全かつ快適に利用していただけるよう職員が適宜刈込等を実施

【凍雪害対策】

- ・冬期には、積雪によって入口付近が滑りやすくなるため、除雪及び融雪剤を使用し、危険防止に努めるとともに、屋外の避難経路についても除雪を実施
- 

【奥中川園地】

- ・落葉やゴミ等を清掃するとともに、巡視により目視で園路上の枯れ枝や倒木の危険性等をチェックし、利用者の安全に影響を及ぼすような異常を確認した際には、県自然環境保全センターに連絡するとともに、緊急性が高い場合には同センターと協議し、立入禁止等の措置を実施

【駐車場】



■受付

○笑顔の対応

- ・受付カウンターは、情報を求めて立ち寄る場所であり、施設の顔として重要な場として捉え、おもてなしの心を持ち笑顔で対応

○適切かつ素早い情報提供

- ・朝礼などによる最新情報の共有、資料の取り出しやすさに配慮した適切な収納及び配架等により、多様な利用者の興味等に応じた適切かつ素早い情報提供
- ・よく聞かれる情報(バス時刻表等)は目立つところに掲示し、利用者の利便性の向上を図るとともに、受付業務を効率化

○ユニバーサル対応・デジタルツールの活用

- ・デジタルツールも活用しながら、年齢、性別、障がいの有無や国籍等に関わらず、誰もが安心してご利用いただけるユニバーサルでおもてなしの心をもった対応
- 

- ・コミュニケーションボードを配備
 - ・ピクトグラムを用いた掲示
- 

○落とし物対応

- ・遺失物に関しては、スタッフ間で情報を共有し、「施設占有者のしおり（神奈川県警察本部）」に則り適切に処理

■備品・収蔵物等の管理

- ・事務備品は、物品管理責任者を指定し、備品管理簿等で適切に管理
- ・展示物は滑り止めをつけるなど、地震等による転倒落下を防止
- ・剥製、岩石など貴重な標本を適切に維持するため、標本の清掃など、標本の取扱いに熟練した職員が適切に管理
- ・新たな剥製・標本類の作製や自主財源を活用した閲覧図書の充実

■保安警備業務

- ・開館中は職員が巡視し、日常的に利用者への声かけ等を実施
- ・持ち運びが容易な展示品は目の届く範囲に配置し、その他剥製・岩石等貴重な展示品については構造物に括りつけるなどの展示物の盗難防止策の実施
- ・閉館前の点検にあわせ、館内に利用者が残っていないか確認
- ・閉館時は戸締りを徹底

■業務の効率化と高品質な維持管理

- 独自に作成した維持管理マニュアルによる維持管理水準の担保
 - ・どの職員が行っても適切な維持管理水準が担保できるよう、これまでのノウハウを整理した独自のマニュアルを作成・運用
- デジタルツールの積極的活用
 - ・男子小便器自動洗浄装置、
業務の効率化と高品質な維持管理を両立
- 県との緊密な連携による計画的な修繕
 - ・施設の劣化状況や補修の優先順位等を県自然環境保全センターに報告
- 当協会のスケールメリットを活かした維持管理
 - ・コピー用紙やトイレットペーパー等を都市公園等と集約発注することにより、費用の節減と効率化

■環境に配慮した維持管理

- ・電力は、再生可能エネルギーを活用した電力(再エネ率 100%)を利用

3 利用促進のための取組、利用者への対応

(1) 施設の利用促進のための企画・取組

ア より多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等

(ア) 実施方針

- ・VCが「多様なニーズに沿った学習・人材育成の場」となり、「丹沢の魅力と適正で安全な利用のための情報発信」ができるよう、多彩なイベントや展示等を展開した。

a 年齢や国籍、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめる学習の場を提供

■みんなの体験コーナーの設置

- ・秦野VCの子どもコーナーの機能を拡充し、子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、誰もがゆっくり楽しみながら自然を学べる展示コーナー「みんなのたいけんコーナー」を設置した。

■五感で感じる自然体験展示

- ・視覚だけでなく、触覚や嗅覚などでも自然を感じられる展示を行った。

■利用者の関心度合い等に応じた解説

利用者の関心の度合いや対象に合わせ、展示等の解説を行った。

■多様な手段で伝える工夫

- ・受付カウンターに耳マークを掲示するとともに、英語版安全登山チラシを配備した。

b 多様化する丹沢やVCの利用者に対し、関心の程度や知識の度合いに応じたプログラムをきめ細かく提供

- 「関心の程度や知識の度合いに応じたプログラム」を実施した。(利用促進プログラム実績一覧参照)
- セルフガイドシリーズ(秦野VC)
公園や周辺を散策しながら、気軽に自分のペースで自然を学べる「セルフガイド」を作成・配布した。
- フレンズ制度の導入

丹沢の自然や登山等についての展示や持ち込みイベントの相談窓口を設置した。

利用促進プログラム実績一覧

<秦野VC>

	イベント・プログラム	日程	実施回数	参加人数	備考
学びの入口	丹沢トーク	月1~2回程度	25回	375人	ほか不成立2回 延べ144組に実施
	園内トーク	月1~2回程度	57回	131人	12日/年、ほか不成立3日
	出張丹沢トーク	年2回程度	4回	934人	4/26、11/8は宮ヶ瀬エリア 11/3は秦野市民の日 11/15は丹沢日和フェスティバル 延べ68組に実施
	クラフト等体験プログラム	年4回程度	3回	52人	10/19、1/31、3/28に実施
	秦野丹沢まつり 自然観察ハイキング隊	4月20日	1回	19人	丹沢山開きでの自然観察ガイド
	山の日イベント	8月9~11日	3回	128人	山の日に合わせて行う丹沢トーク 延べ42組に実施
	秦野戸川公園まつり	10月19日	1回	142人	秦野戸川公園まつりでの丹沢トーク 及びクラフト体験プログラム 延べ85組に実施
	三館合同「みんなで登る・学ぶ・作る！」	2026年 1月31日	1回	13人	秦野戸川公園・山岳スポーツセンター・秦野ビジターセンター合同イベント
学びを	登山道トーク	年2回程度	3回	84人	延べ52組に実施
	秦野丹沢まつり 登山ガイド	4月20日	1回	2人	丹沢山開きでのガイド

	登山教室「まずはこれだけ覚えよう！初めての地図読み」	5月17日	1回	8人	
	自然教室「やまびる伝道師 ひるちゃんと探る、思わず恋する?!ヤマビルの秘密」	7月26日	1回	12人	企画展関連イベント
	絵本作家たての先生と見る・歩く・聞く！自然発見イベント」 【第1弾】 観察会「たての先生と行く！自然観察の森」 【第2弾】 ハイキング「たての先生と行く！ちょこっと山歩き」 【第3弾】 トークイベント「たての先生と丹沢ワイルドライフ」	【第1弾】 8月23日 【第2弾】 11月1日 【第3弾】 2月1日	各1回	【第1弾】 14人 【第2弾】 14人 【第3弾】 27人	
	登山教室 「まずはこれだけ覚えよう！初めての地図読み」	2026年 2月14日	1回	9人	
	二館合同「野鳥観察会」	2026年 2月22日	1回	15人	秦野戸川公園・秦野ビジターセンター 合同イベント
	秦野 VC・西丹沢 VC 連続地学教室 「丹沢の岩石図鑑づくり ～EAST編～」	7月20日	1回	18人	秦野 VC・西丹沢 VC 合同企画として実施
フレンズ事業・その他	自然観察講座 「チョウを知って自然環境を学ぼう」	10月13日	1回	13人	NPO 法人日本チョウ類保全協会・秦野戸川公園との共催 (フレンズ制度利用)
	「地図読み講習会」	1月17日	1回	6人	山北つぶらの公園との共催
	登山ガイドと行く「三ノ塔」	11月23日	1回	2人	秦野 VC と共催の個人持込企画 (フレンズ制度利用)
	合計		110回	2018人	

<西丹VC>

	イベント・プログラム	日程	実施回数	参加人数	備考
学びの入口	西丹トーク	月1回程度	22回	58名	
	ファミリーキッズ 「丹沢湖でカヤック自然体験」	6月21日 6月28日	1回	3名	自然体験プログラム 山北町と共催 ※6/28は応募なしのため中止
	ファミリーキッズ 「河原で自然体験」	7月19日 7月26日 8月23日	3回	20名	自然体験プログラム
	体験プログラム 「登山に役立つロープワーク」	4月12日	1回	3名	登山教室
学びを深める	体験プログラム 「春の花観察会」	5月10日	荒天	中止	自然教室 山北町共催
	体験プログラム 「はじめての登山」	9月20日	1回	2名	登山教室

	体験プログラム 「秋の花観察会」	10月4日	1回	5名	自然教室 山北町共催
担い手づくり	公募型行事 地学教室「歩いて学ぼう！丹沢 1700万年ドラマ」	11月16日	1回	9名	自然教室 山北町共催
	公募型行事 山岳事故検証講座 「その時何が起きたのか。」	12月14日	1回	7名	登山教室 松田警察署山岳救助隊協力
	木橋補修活動隊	7月23日 9月17日	2回	12名	保全C、VC、西丹沢安全登山協力会 合同
フレンズ事業・その他	登山ガイドと行く 「畦が丸登山」	5月24日	1回	6名	自然体験 SP プログラム
	登山ガイドと行く 「西沢・大人の水遊び」	7月21日	1回	5名	自然体験 SP プログラム
	登山ガイドと行く 「西沢・花と滝めぐり」	9月28日	1回	3名	自然体験 SP プログラム
	登山ガイドによる 「初めての地形図教室」	11月3日	1回	4名	自然体験 SP プログラム
	自主事業 登山ガイドによる 「登山に使えるロープワーク」	11月22日	1回	1名	自然体験 SP プログラム
	NPO 法人共催事業 「西沢シャワークライミング」	8月2日 8月30日	2回	22名	フレンズ事業
	VC 合同事業 連続地学教室「丹沢の岩石図鑑作り ～WEST 編～」	7月27日	1回	4名	VC 合同連続地学教室
	山北つぶらの公園との合同事業 「大野山ハイキング」	3月1日	1回	6名	山北つぶらの公園との合同事業
合計			42回	170名	

この他、来館者に対し随時レクチャーを実施

秦野 2,010 人/年 (869 回/年)

西丹 3,453 人/年 (1,151 回/年)

c ニーズに応じた団体プログラムの提供

- ・屋内のスライドトーク、屋外のセルフガイドプログラムなど、利用者の希望に応じて多彩なプログラムを提供した。

<秦野 VC>

内容	回数	参加者数	備考
スライドトーク	7回	177名	
野外セルフガイド	1回	24名	
その他レクチャー	13回	283名	
計	21回	685名	

<西丹沢 VC>

内容	回数	参加者数	備考
スライドトーク	1 回	13 名	
野外セルフガイド	0 回	0 名	
その他レクチャー	88 回	1384 名	
計	89 回	1385 名	

d 展示による丹沢の魅力と適正で安全な利用のための情報発信

- ・県設置の常設展示の維持や改良に加え、独自に調達した剥製などの資料を活かした展示、更新が容易な手づくりでの展示等を展開し、ターゲットと伝える内容に応じて配置を工夫し、環境教育と安全登山の普及啓発に努めた。
- ・より学びを深めるためにテーマを絞った企画展を開催した。

<秦野 VC>

行事名	日程	備考
丹沢みどころ紹介 2024 年版	2 月 22 日～6 月 1 日	
ヤマビルってこわい？ほんとうは…意外と知らないヤマビルのひみつ	6 月 7 日～9 月 7 日	関連イベントを 7 月 26 日に実施
丹沢 登った先に見える景色	9 月 13 日～12 月 14 日	
展示で学ぶ！野鳥観察入門～ゼロから始めるバードウォッチング～	12 月 20 日～3 月 1 日	
丹沢みどころ紹介 2025 年版	3 月 7 日～6 月 21 日	

<西丹沢 VC>

行事名	日程	備考
「ヤマビルってなに？」	6 月 1 日～9 月 30 日	山北町共催
「遭難事例から学ぶ安全登山」	10 月 1 日～12 月 28 日	松田警察署山岳救助隊協力
「2025 年・写真で見る西丹沢の 1 年」	1 月 4 日～3 月 31 日	

<巡回展示・出張展示>

行事名	日程	会場	備考
チョウのおもしろ発見!展	5 月 31 日 ～7 月 17 日	宮ヶ瀬ダム水とエネルギー館	秦野 VC 主催
丹沢みどころ紹介 2024 年版	6 月 14 日 ～7 月 29 日	保土ヶ谷公園	
ヤマビルってこわい？ほんとうは…意外と知らないヤマビルのひみつ	10 月 21 日 ～10 月 31 日	山北町生涯学習センター 山北町環境展会場	秦野・西丹沢・山北町共催
「見つけた！丹沢の森の落とし物」	12 月 4 日 ～1 月 12 日 1 月 14 日 ～2 月 1 日 2 月 17 日 ～3 月 12 日	保土ヶ谷公園予定 相模原公園 座間谷戸山公園	秦野・西丹沢共催

イ より多くの利用を図るために行う広報・PR 活動の内容等

■あらゆる人へ必要な情報を届けられる情報発信

○Web 媒体ごとの特性を効果的に活用した情報発信

- ・即時性と拡散性に優れた SNS
- ・多くの情報の発信や過去投稿の蓄積が可能で更新が容易なブログ
- ・ネット上で広く多くの情報を発信できる HP

○紙媒体による情報発信

- ・自然公園だよりの発行
- ・パークナビの発行
- ・オリジナル V C カード (TANZAWA Wildlife card) の配布

■地域と連携した情報発信

○商業施設との連携

_____ 店内でオリジナル VC カードやイベントチラシを配架

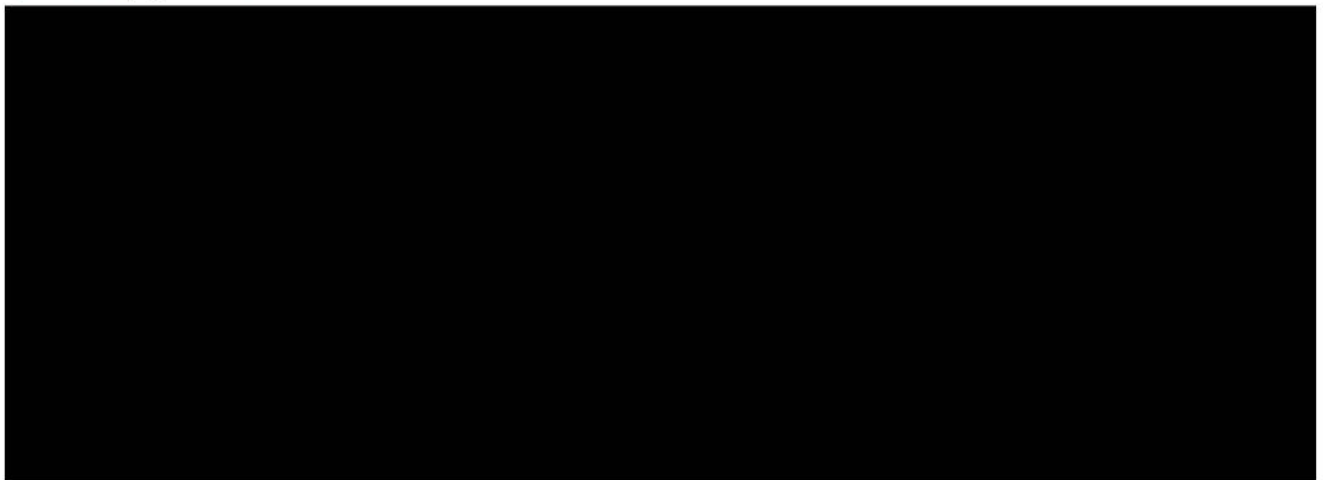
○地元市町や観光協会等と連携した情報発信

- ・秦野市公式観光・お出かけ・イベントサイト「OMOTAN」との連携など、秦野市や観光協会と連携して情報を発信
- ・山北町や_____ 連携して情報を発信
- ・_____ パンフレット配架
- ・町の施設における企画展示開催
- ・_____ チラシの配架

○周辺施設との連携

- ・都市公園(山北つぶらの公園や七沢森林公園等)でのパンフレット等の配架
- ・_____ でのパンフレット等の配架
- ・_____ でのパンフレット等の配架
- ・丹沢周辺自然情報の作成と周辺施設等への掲示依頼

○交通事業者との連携



○外部メディアの活用

- ・マスコミへの丁寧な対応による発信

- ・外部 HP 等での情報発信

■若年層への魅力発信

○SNS による情報発信

- ・X(旧 Twitter)

- ・Instagram

- ・Facebook

○オンライン動画配信

- ・リール動画の配信 (Instagram)

- ・自然観察会等のイベント動画の配信

○オンラインでのイベント申込受付

- ・利用者の利便性に配慮し、往復はがきでの申込に加え、イベントの参加申込メールフォームを設け、オンラインでの申込にも対応

○学校へのアプローチ

- ・学校等の団体向けの多彩なプログラムを用意し、HP で広く発信

- ・秦野戸川公園内の 4 施設(秦野戸川公園・山岳スポーツセンター・はだの丹沢クライミングパーク・秦野 VC)が連携して、大学や高校での部活動等での利用を促進

ウ サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み 等

(ア) 利用者ニーズ・苦情の把握と反映の仕組み

・VC を利用されている利用者のみならず、これから VC を利用する可能性のある潜在的利用者を含め、「①ニーズや苦情を的確に把握」「②分析」のうえ、「③運営を改善」することで、「④利用者満足度の向上、新規利用者の獲得」を図った。

(イ) 苦情・トラブル発生時の対応

■事前の体制整備

○接遇マニュアルの整備

- ・当協会本部で、あいさつ、言葉遣いから身だしなみ、電話対応から、苦情・トラブル発生時の心構えや対応の流れ、更にカスタマーハラスメントへの対応まで、マニュアルを整備

○研修の実施

- ・[] 苦情対応も含め接遇研修（新規採用時及び年 1 回）

- ・朝礼時の挨拶唱和、身だしなみチェック（毎日）

- ・[] を用いた実施状況の確認（月 1 回）

■苦情・トラブル発生時の対応

○現場での対応

- ・接遇研修を受け、経験も豊富な職員を配置し、迅速に対応した。

エ 適正で安全な自然の接し方などの情報提供の取組等

(ア) 幅広い手法や多様な主体と連携した情報収集

○専門知識豊富な職員による情報収集

- ・利用者が多い場所や問い合わせが多い場所を中心に、山地の登山道を巡る現地調査を専門知識豊富な職員により実施
- ・その他 VC 周辺の情報収集を適宜、職員が実施
- ・情報収集に当たっては、
- ・西丹沢 VC では、繁忙期には、VC 周辺の駐車場混雑状況について、適宜、ネットワークカメラの活用を図るとともに現地で確認しながら情報を収集

○関係機関や丹沢の活動団体等との連携による情報収集



(イ) 自然公園利用者への情報提供と普及啓発

■これから丹沢を訪れる方へ向けた情報提供

- ・Web 媒体を活用した情報発信
- ・問い合わせ対応（電話・メール）
- ・自然公園だよりの発行

■丹沢を訪れた自然公園利用者への情報提供と普及啓発

- ・館内や施設周辺での対応
- ・館内での展示・掲示



- ・チラシやパンフレット類の配布



- ・地域と連携した安全登山の普及啓発



- ・プログラムによる普及啓発
- ・安全登山をテーマとした企画展の開催

(ウ) 情報の蓄積と活用

- ・収集した情報は、[redacted]
[redacted] 登山者への情報提供等に活用した。

オ 神奈川県手話言語条例や外国人への対応等

(ア) 神奈川県手話言語条例への対応

- ・コミュニケーションツール（コミュニケーションボード）を設置
- ・電話以外の問い合わせツールの用意（電子メール、FAX）

(イ) 外国人利用者への対応

- ・コミュニケーションボードの設置
- ・簡易な英語対応は職員が窓口で対応
- ・JIS 規格に準じた当協会オリジナルピクトグラムの活用
- ・HP、パンフレットの4ヶ国語言語対応（QR コードを活用）
- ・英語の注意喚起の表示による遭難防止の呼びかけ
- ・公共交通機関の英語案内の配布

(ウ) 障がい者への対応

- ・[redacted] 車椅子貸出
- ・[redacted] 自然観察会の開催
- [redacted]
- [redacted]
- [redacted]
- [redacted]
- [redacted] ・コミュニケーションボード等の設置
- ・「耳マーク」の掲示による聴覚障がい者への筆談などの配慮
- ・ピクトグラムの設置
- ・家族・介助者等コミュニケーションを支援する方への丁寧な対応

(エ) 高齢者への対応

- ・車椅子貸出（秦野 VC）
- ・老眼鏡・ルーペの貸出
- ・ゆっくり大きな声で聴きとりやすい案内を意識した対応

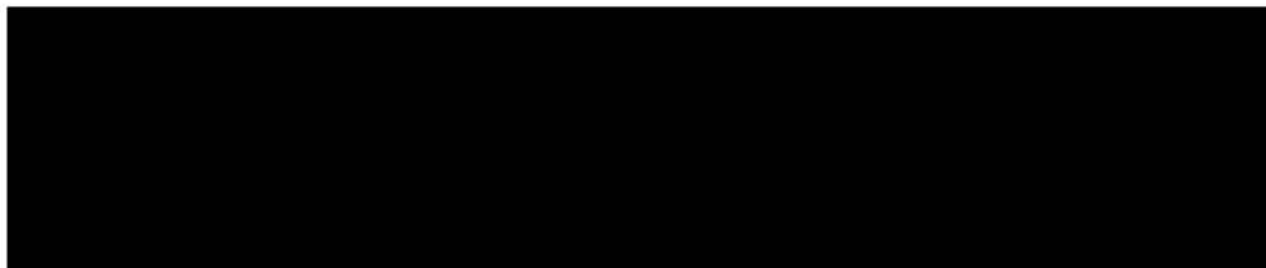
(オ) 子育て世代への対応

- ・子ども用便座の貸出
- ・小便器へ男児用の踏み台の設置
- ・掲示物へのルビ振り
- ・おむつ交換台等の子育て支援情報の提供（HP、子育て支援サイト等）

カ 施設の特徴をより効果的に活かすために行う自主事業の内容等

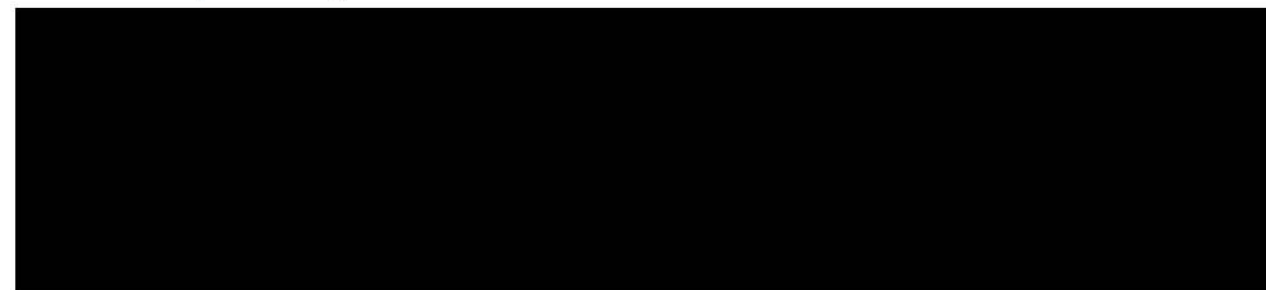
(ア) 登山や自然観察関連の物品販売

- ・VC利用者の利便性を高め、安全・快適な野外活動を支援するため、物品販売を行った。



(イ) 講師派遣

- ・丹沢の地形、動物、植物、歴史などについて、学校の授業などで学べるよう、専門的知識を持つ職員を小・中学校や各種団体等に派遣して、屋内での講義や野外での自然観察会などの受け入れ態勢を整えたが、申込はなかった。



(ウ) 有料プログラム

- ・丹沢で活動する専門性の高い団体等との共催で、利用促進プログラムより、深く丹沢の自然を知ることができ、レジャーとしても楽しめる「有料プログラム」を実施した。



(2) 一体運営により可能となる利用促進のための企画・取組

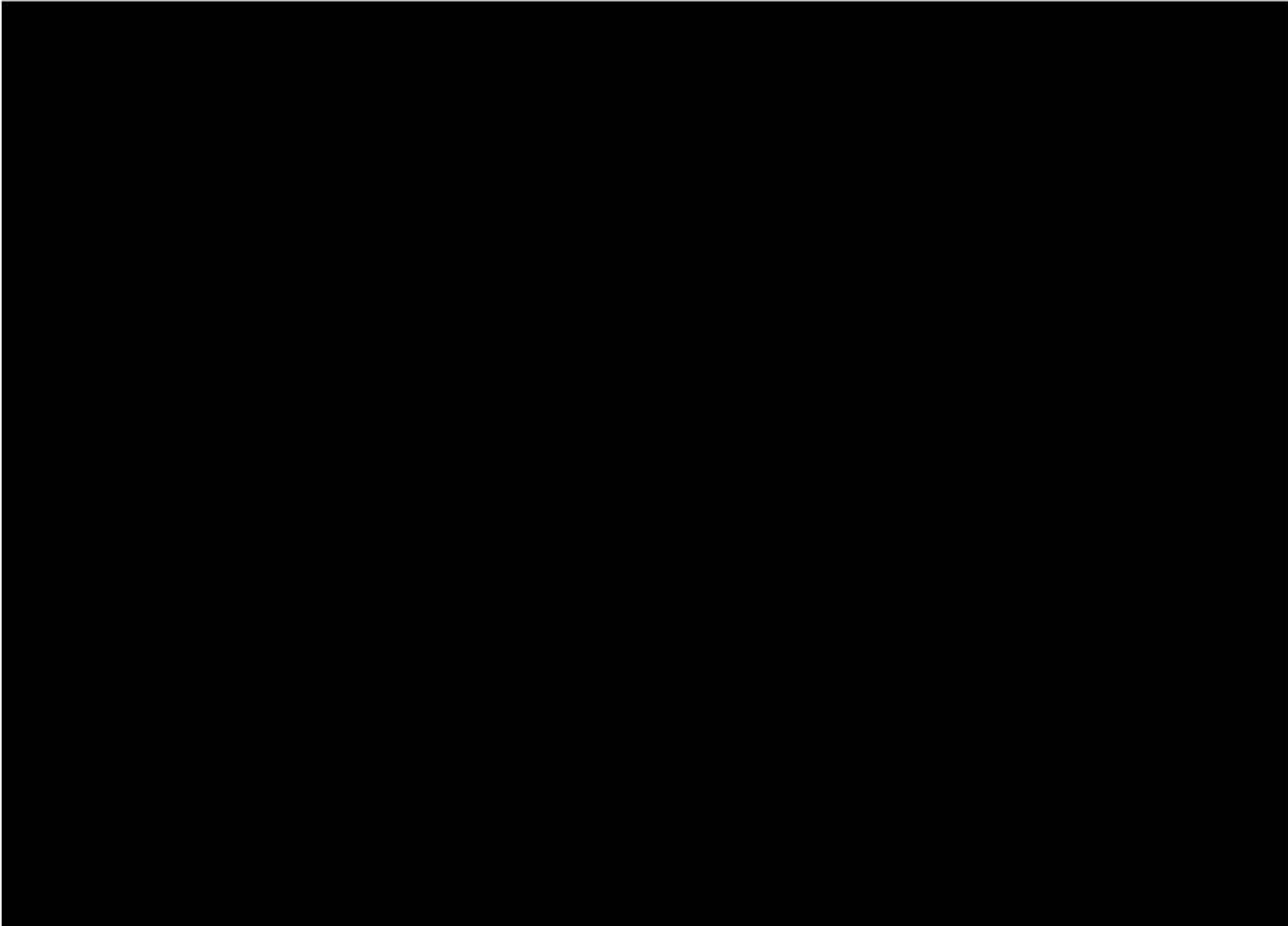
ア 一体運営により展開する、利用促進のための企画・取組

a イベントプログラムの実施

■両 VC 連続講座等の共同プログラム

- ・カードを集めて丹沢図鑑を作ろう！

■周辺都市公園等と連携した共同企画

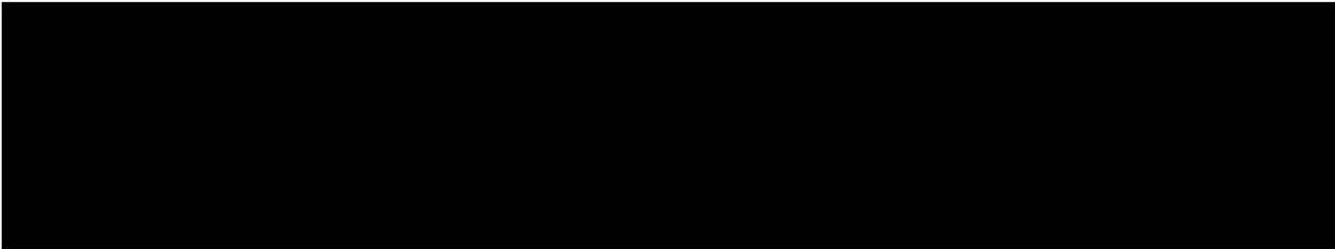


b 情報収集・発信

■両 VC で連携した情報収集・情報共有

- ・両 VC 間でエリアを分けて情報を収集するとともに、綿密な情報共有を図り、西丹沢 VC の休館日は秦野 VC が利用者へ必要な情報提供をするなど、連携して対応した。

■両 VC で連携した情報発信

- ・両 VC で統一した HP やパンフレット等共通した媒体を使用するとともに、SNS の相互フォローやリポストなどによる情報拡散の協力など、連携した広報・PR を実施した。
- 

c ヒト・モノ・コトの共有



イ 利用の促進を図っていくため、指定期間中の年度の目標施設利用者数

指定管理期間中の年度の施設利用者数

		令和 7 年度 (2025)	令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)	令和 11 年度 (2029)
秦野 VC 利用者数	目標	120,800 人	121,600 人	122,400 人	123,700 人	125,000 人
	実績	116,391 人				
	目標比	96.4%				
西丹沢 VC 利用者数	目標	107,900 人	108,600 人	109,300 人	110,400 人	111,500 人
	実績	119,094 人				
	目標比	110.4%				

4 事故防止等安全管理

(1) 事故防止等安全管理

ア 指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容

(ア) 利用者の事故防止対策

■館内危険箇所等の日頃の点検と対応



- ・子どもの予想外の動きによる事故防止：声掛けや見回り、備品や展示物のぐらつき等点検
- ・展示室内ストープでのやけど防止：ストープを柵で囲む(西丹沢 VC)

■野外プログラム等における事故防止対策

- ・救急キットや雷感知機等の装備を整え、下見や当日の活動、緊急時対応を実施
- ・下見では、急な天候変化等に備えたエスケープルート、危険な動植物（スズメバチなど）、AED の設置場所などについて確認
- ・参加者には、事前にコース概要や必要な装備を伝達
- ・出発前に準備運動を行い、怪我の予防に努めるとともに、体調の悪い参加者がいないか確認

■防犯対策

- ・利用者への積極的な声掛けなどで、顔の見える関係を構築
- ・地元警察や消防、学校等と犯罪や事故情報に関する情報の共有やイベント等の開催情報の共有を図り、地域で一体となって防犯対策を行う

- ・神奈川県警察が発信する「ピーガルくん子ども安全メール」へ登録し、子どもや女性を犯罪から守るための情報（不審者情報等）を収集し、防犯に役立てる

■防火対策

- ・定期的な消防設備の点検 [REDACTED]、電気製品及び周辺環境の点検（漏電防止の徹底）
- ・消防訓練の実施 [REDACTED]

（イ）VC 職員の職務遂行時の事故防止対策

■VC 勤務時の事故防止対策

- ・床面から離れる作業（脚立等利用）実施時には、ヘルメットを着用し、他の職員に声をかけてから実施
- ・修繕、植物管理等の作業時には、ヘルメット・長袖長ズボン等を着用

■自然公園内情報収集時の事故防止対策

[REDACTED]

■車の運転に当たっての事故防止及び事故発生に備えた対応

- ・公用車はドライブレコーダーを搭載

イ 事故・不祥事等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事案を認知した際の対応方針

（ア）事故等への備えと発生時の対応

■事前の備え

- ・近隣医療機関の情報や警察、山岳救助隊、消防等関係機関の情報を職員で共有
- ・館内に救急箱と AED [REDACTED] を設置し、野外活動時は救急キットを携行するとともに、事前に AED 設置場所を確認
- ・上級救命講習（応急手当や AED 取扱い等を学ぶ）相当以上の受講者を VC に配置するとともに、防災訓練時などに AED の取扱い等を訓練

[REDACTED]

[REDACTED]

- ・ [REDACTED] 訓練を実施

- ・両 VC 共同で安全管理研修を実施

[REDACTED]

[REDACTED]

■事故等発生時の対応

- ・該当なし

(イ) 災害への備えと発生時の対応

a 大雨等の異常気象時

<両 VC 共通>

- ・ラジオや関係機関からの情報、気象庁の「高解像度降水ナウキャスト」や地元自治体の防災情報メール等を活用し、リアルタイムに情報を収集

<秦野 VC>

- ・[] 電源取り出し可能な電気自動車を配備し、台風接近が予想されるなど停電の可能性が高まる際には特にフル充電とする
- ・[] 大雨や台風の接近状況等に応じ、利用者への帰宅呼びかけ等を実施

<西丹沢 VC>

- ・大雨や大雪、台風の接近状況、アクセス道路である県道の状況等に応じ、利用者への帰宅呼びかけ等を実施するとともに、県自然環境保全センターと協議の上、閉館の判断をし、HP や SNS で周知

b 震災時

■事前の備え

○備蓄

<秦野 VC>

<西丹沢 VC>

○地域の関係機関等との関係構築

<秦野 VC>

- ・[] 消防署と連携した消防訓練や近隣施設と連携した防災訓練を実施
- ・[] 避難場所である北中学校や西小学校等への誘導方法や帰宅困難者の受入体制について、事前に市や警察・消防等と調整

<西丹沢 VC>

- ・避難場所である旧三保中学校等への誘導方法や帰宅困難者の受入体制について、事前に町や警察・消防等と調整

○機器の整備

- ・通信手段の整備

- ・発災時に滞留者等が連絡・情報収集ができるようフリーWi-Fiを整備

○訓練

- ・避難経路の確認や初動対応訓練、安否確認訓練を年1回以上実施

■震災発生時の対応

- ・該当なし

(ウ) 安全管理の妨げとなりうる事案への対応

- ・該当なし

(エ) 外国人、障がい者、高齢者等への対応

- ・想定されるケースごとに、適切な対応が図れるよう、ピクトグラムやコミュニケーションボード、などのツールを準備するとともに、日頃から、多様な利用者に対し、きめ細かな対応を行った。

(オ) 不祥事(個人情報の流出、管理瑕疵に伴う利用者の受傷等)を認知した際の対応

- ・該当なし

(カ) 業務継続計画について

- ・当協会では、大規模災害発生や感染症のまん延に備え、事業継続計画書(BCP)を策定しており、優先的に継続する重要な業務の設定、危機管理体制の整備、当協会本部に代わる災害対策本部の代替拠点等を設定し、VC 指定管理業務を含む法人としての事業継続を図れるよう備えた。

ウ 急病人等が生じた場合の対応

(ア) 急病人等への対応

■事前の備え

- ・近隣医療機関の情報や警察、消防等関係機関の情報を職員で共有
- ・館内に救急箱と AED を配備し、野外活動時は救急キットを携行するとともに、事前に AED 設置場所を確認
- ・上級救命講習(応急手当や AED 取扱い等を学ぶ) 相当以上の受講者を VC に配置するとともに、消防訓練や防災訓練時などに AED の取扱い等を訓練

■発生時の対応

- ・該当なし

(イ) 感染症への対応

■日常の感染防止対策

- ・室内の小まめな空気の入替えや手洗い場への石鹸の設置等、換気や手指の衛生に留意
- ・咳エチケットを徹底するとともに、利用者に求められた場合にはマスク等を着用
- ・職員が感染症への罹患が疑われる体調不良の際は、無理をせず、自宅で休養
- ・職員が感染した場合は自宅等で療養

■危険度が高い感染症が流行した際の対応

- ・該当なし

エ 山岳事故防止への貢献と発生時の対応

■山岳事故防止への貢献

- ・安全登山に必要な技術や知識等について学べるプログラムや展示を実施

登山教室「まずはこれだけ覚えよう！初めての地図読み」を実施（5月17日、2月14日）

地図読み講習会を実施（1月17日、山北つぶらの公園と共催）

- ・安全登山のために必要な情報の収集と発信

■山岳事故発生時の対応

- ・該当なし

5 地域と連携した魅力ある施設づくり

（1）地域と連携した魅力ある施設づくり

ア 地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容及び地域資源と連携した取組内容

a 地域との協力体制の構築

■周辺類似施設との連携

- ・調査研究や野外体験などを行う施設と、情報交換や資料の貸し借りなどの協力を行うことで、相互の自然に関する学習効果を高めた。

b ボランティア団体等の育成・活性化に向けた連携・支援の取組

■ボランティア活動の支援

- ・フレンズ制度（持ち込みイベントや展示の相談窓口設置）の導入

- ・木橋補修の新たな参加者を募る仕組みづくり（西丹沢 VC）

■県自然公園指導員の育成・連携

- ・県自然公園指導員が巡視を行う前に VC へ立ち寄った場合には情報提供を行い、下山後は山中で見つけた動植物などの問い合わせに対応
- ・県自然公園指導員によって得られた最新情報は、掲示板や問い合わせ対応などで活用

c 地域人材の活用

■VC における職員の雇用

- ・VC の職員はできる限り地元の人材を雇用し、地域経済の活性化に貢献するとともに、地域に根差したきめ細かな施設運営を実施

■専門性の高い地域人材との積極的な連携

- ・ボランティアやパークレンジャー、県自然公園指導員などと連携して、VC 職員だけでは把握しきれない丹沢の自然情報等を収集
- ・個人ボランティア（2名）の方の収集した自然情報を提供していただく（秦野 VC）
- ・自然教室等のプログラムや企画展示等の開催に当たっては、地域を良く知り、地域で活動する専門家に講師や展示物作成の依頼をするなど積極的に連携を図った

d 地元自治体の地域振興の取組への積極的な協力・連携

■秦野 VC×秦野市の連携

○山系イベントへの協力

○はだの表丹沢森林セラピーへの協力

- ・秦野戸川公園のセラピーコースのほか、秦野市内のセラピーロードについても公園とともに広報した。

○「OMOTAN」への協力

- ・秦野市が推進する表丹沢のブランド化「OMOTAN」への取組に協力した。
- ・表丹沢ツーリズム連絡会議に参加（7月3日、2月12日）
- ・秦野市のデジタル地域通貨 OMOTAN コインに参加（1月～）

■西丹沢 VC×山北町（県）の連携

○山系イベントへの協力

- ・町観光協会主催「西丹沢山開き」では、VC をイベント参加者の交流や情報交換の場として提供するなど協力した。
- ・山北町の「山の日イベント」として VC 入口で普及啓発グッズの頒布協力等を行った。

○山北町森林セラピーへの協力

- ・山北町の森林セラピーイベントの広報協力やイベント時の館内利用に協力するなど、森林セラピーの振興に貢献した。

○県の未病いやしの里の駅（森の駅）

- ・「未病を改善する」取組を体験できる施設として登録されており、VC 利用者が登山前後などに利用できるよう、血圧計を設置した。

e 丹沢の利用や周遊促進に向け地域と連携したプログラムの実施や広報・PR

■地域と連携した利用・周遊促進

○「カードを集めて丹沢図鑑を作ろう！」

- ・現在両 VC で配布している丹沢ワイルドライフカードについて、
と連携し、配付した。

○セルフガイド

- ・秦野 VC では、公園や周辺を散策しながら、気軽に自分のペースで自然を学べる「セルフガイド」を更に追加、配布するほか、西丹沢 VC ではチャレンジルートマップを作成に向けた準備等を推進した。

○チャレンジルート＜西丹沢 VC＞

- ・丹沢のメインルート全域を巡る全長約 100 km のロングトレイルコース「チャレンジルート」の設定やマップ等を作成するため関係自治体と調整した。

○登山記録証

- ・丹沢の登山履歴を記録するシートを VC 窓口で配布することでリピート利用や地域の周遊を促した。

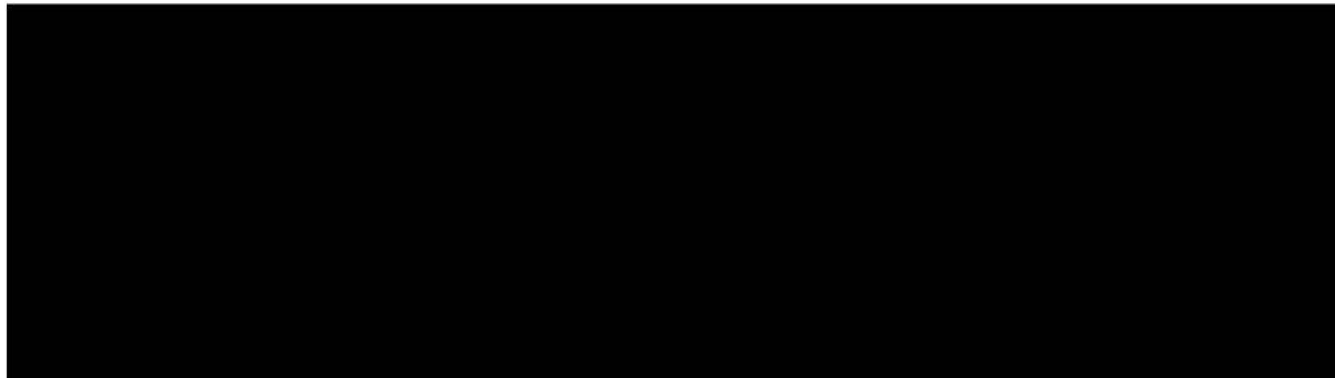
■都市部の施設と連携した丹沢の魅力・自然の大切さの普及啓発

○都市公園等における巡回展

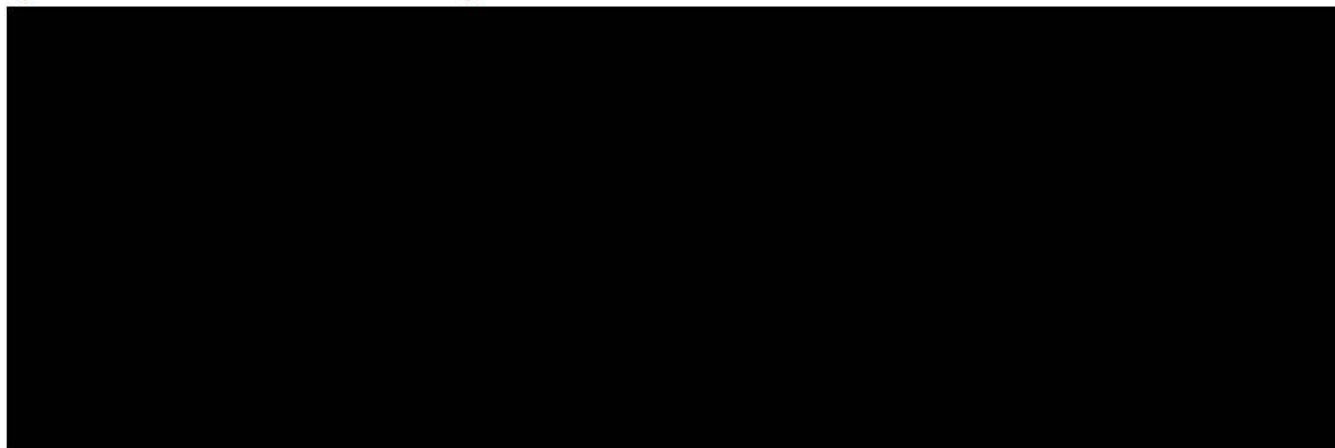
- ・巡回展示「見つけた！丹沢の森の落とし物」開催
- ・フォトコンテストの開催

■広報 PR にかかる連携

○交通事業者との連携



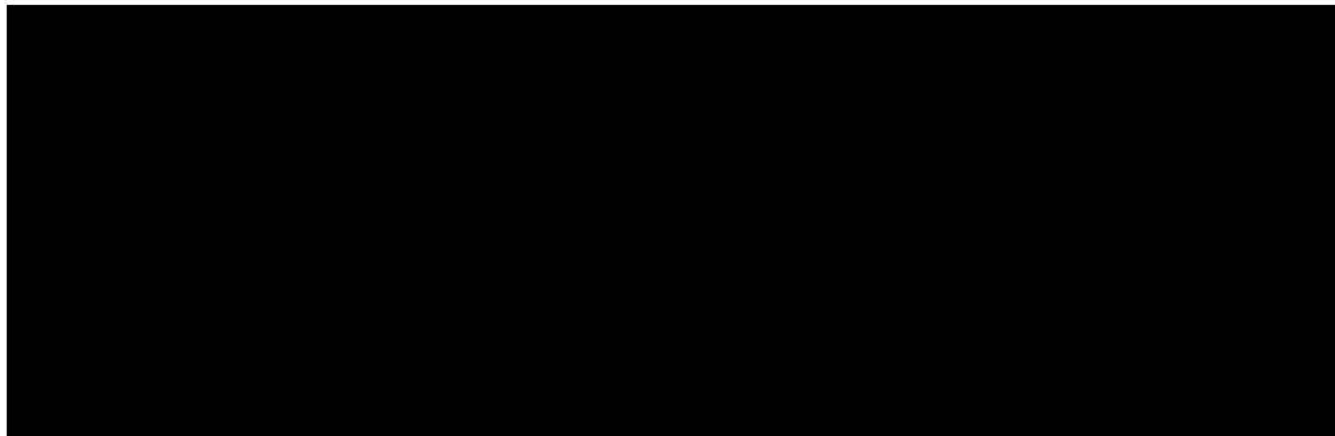
○地元施設と連携した広報・情報発信



f 事故防止等、丹沢の安全・安心確保への貢献

■山岳遭難事故の未然防止対策（適正で安全な利用のための情報発信や普及啓発）

< 秦野 VC >



＜西丹沢 VC＞

■山岳事故発生時の警察・消防への協力

- ・登山者からの救助依頼の電話が直接 VC に寄せられた場合には、警察への通報を促すとともに、VC からも必要に応じて山岳救助隊や警察署に連絡し、早期の捜索開始に協力

■大規模災害発生時の連携

＜秦野 VC＞

- ・災害時に備え、消防署と連携した消防訓練や近隣施設と連携した防災訓練を実施した。

＜西丹沢 VC＞

- ・日頃から、山北町等と意見交換するなど、連携体制を整えた。

g 丹沢の重要な資源である「自然」の保全・再生への貢献

- ・丹沢の重要な資源である自然を保全・再生するため、利用や周遊の促進を図るだけでなく、丹沢大山自然再生計画の推進に貢献します。

イ 地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容

- ・委託先は、地域経済への貢献や地域連携の視点に立ち、地域に精通し迅速かつきめ細かい対応が可能な地元企業を優先し、地元が発注可能な企業がない場合は、県内企業へ発注した。

6 節減努力等

※別紙収支計画表参照

7 人的な能力、執行体制

（１）人的な能力、執行体制

ア 指定期間を通じて２施設を一体的かつ効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況

イ 業務の一部を委託する場合の管理・指導体制

- ・契約における問題及び受注者を管理する上での問題を防ぐことを目的に関係規程やマニュアルに基づき、受注者の指導監督を行った。

ウ 指定期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員採用

(ア) 人材育成

(イ) 就労意欲向上の取組

(ウ) 職員の採用

(エ) 労働環境の確保の取組

8 財政的な能力

記載不要

9 コンプライアンス、社会貢献

(1) 指定管理業務を実施するために必要な団体の企業倫理・諸規程の整備、施設整備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況

ア 基本的な考え方

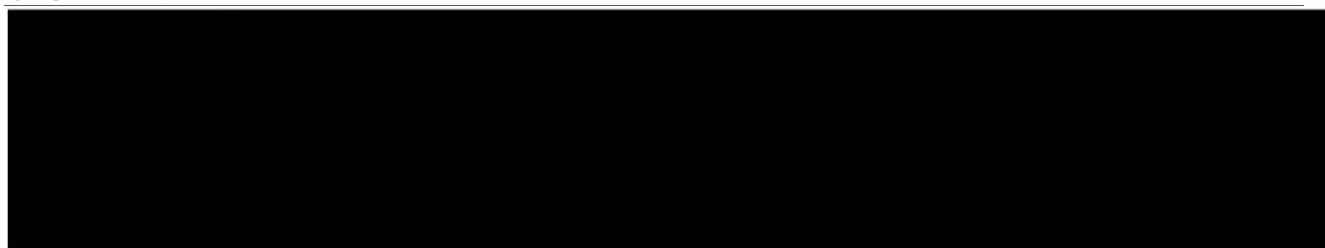
- ・公益財団法人としての社会的信頼性の維持、業務の公正性を確保するため、必要な企業倫理・諸規程を整備し、すべての役職員にその遵守を徹底するとともに、常に社会規範や社会的責任を念頭に置いて業務を執行することで、公益目的を達成し、社会に貢献できるよう取り組んだ。

イ 指定管理業務を実施するために必要な当協会の企業倫理・諸規程の整備状況

- ・指定管理業務を実施するため、必要な企業倫理・諸規程を整備

ウ 施設整備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況

(ア) 法令遵守の徹底に向けた基本的な取組



(イ) 施設整備の維持管理に関する法規、労働関係法規の法令遵守

- ・事業計画の通り法令を遵守

(2) 指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況

ア 環境負荷軽減の具体的取組 4つの環境目標

- ・4つの環境目標達成に向けて取り組んだ。

イ 環境目標達成におけるポイント

- ・グリーン購入の推進
- ・再生可能エネルギーの導入促進
- ・神奈川県が発行する「グリーンボンド」への投資

ウ 環境マネジメントシステムによる実効性の担保

- ・「エコアクション 21」を参考として独自に構築した環境マネジメントシステムにより、行動目標を定め、総合的な環境マネジメントを推進し環境負荷の軽減と自然環境保全の普及啓発を図った。

エ VC での具体的な取組

■環境負荷軽減の取組

- ・再エネ電力（再エネ率 100%）を供給する電気事業者への切替え
- ・節電・節水の励行



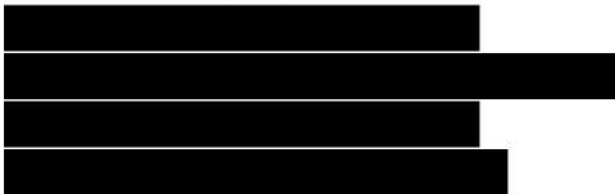
■自然環境の保全に配慮した管理運営と普及啓発の取組

○自然環境の保全に配慮した管理運営



○普及啓発

- ・展示や HP・SNS 等による適正で安全な自然との接し方などの情報発信
- ・自然にやさしい登山マナーの普及啓発
- ・観察会や自然体験教室（プログラム）を通じ環境問題への関心を高める



（３）法定雇用率の達成状況等、障がい者雇用促進の考え方と実績

ア 法定雇用率の達成状況、未達成の場合の対応

（ア）障害者雇用状況（令和 7 年 6 月 1 日現在）

- ・法定雇用率 3.05%を達成している。

（イ）未達成の場合の対応

- ・達成済

（ウ）障害者雇用促進法に基づく国（公共職業安定所長）からの障害者雇入れ計画作成命令の有無

- ・無し

イ 障がい者雇用促進の考え方と実績

（ア）障がい者への就業機会提供の取組

＜当協会全体の取組＞

- ・指定管理業務における植物管理の一部を地元社会福祉法人に委託

- ・障がい者雇用に繋げるため神奈川障害者職業能力開発校実習生の職場体験を受入れ
- ・障がい者就労支援施設の利用者が生産した花苗の公園への植栽や地域緑化団体への配布
- ・福祉作業所等が作成した菓子やグッズを販売する場を提供

<VC における取組>

(イ) 障がい者雇用を行う企業等への積極的な業務発注

- ・当協会は、障がい者就労施設、障がい者雇用企業等への積極的な業務発注を推進するため、

(4) 障害者差別解消法及び神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の趣旨を踏まえた取組についての考え方

ア 取組の考え方

- ・障害者差別解消法及び神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例並びに「ともに生きる社会かながわ憲章」の制定主旨を踏まえ、障がい者本人の立場に立った合理的配慮の提供や広報啓発・研修等に取り組んだ。
- ・障がいのある方とご家族、介助者等が利用しやすい環境整備を促進するとともに、障がい者と障がい者以外の利用者が交流する機会を提供することで相互理解を促進し、インクルーシブな利用環境の確保に努めた。

(5) 神奈川県手話言語条例への対応

- ・聴覚障がい者の利用環境の向上を図るため、意思疎通、情報取得のための重要な手段である手話を使いやすい環境づくりに努めた。

(6) 社会貢献活動等、CSR の考え方と実績、SDGs (持続可能な開発目標) への取組

ア 社会貢献活動等、CSR の実績

- ・施設の特性を活かした学校教育、行政の取組等への協力を行った。

イ SDGs (持続可能な開発目標) への取組

■多様なニーズに沿った学習の場の提供

- ・子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる「みんなの体験コーナー」を設置

■適正で安全な自然とのふれあいの普及啓発

- ・展示や「自然体験プログラム」や「登山教室」などを実施することで、実践的な学びを通じた普及啓発

■丹沢の担い手となる人材育成の促進

- ・利用者の関心度やニーズに合わせたプログラムを展開することで、段階的に丹沢への興味関心を高め、将来的に丹沢の自然保護活動等を担う人材育成を促進
- ・既に活動している方や活動したいと考えている方が成果や技術、知識を伝える場等として VC を活用できるよう、展示や持ち込みイベントの相談窓口を設ける「フレンズ制度」を導入

■生物多様性保全

- ・丹沢地域の動植物に関する情報を収集し生息状況等を把握するほか、収集した情報の発信や関係機関と共有

や植樹活動への参加

■環境教育の推進

- ・丹沢地域の環境教育を担うインタープリターとして、VC での利用者対応や SNS 等での情報発信により、自然情報を発信
- ・自然観察会の開催や学校団体の受入れ、自主事業として、学校等への VC 職員の講師派遣を行い、丹沢の自然環境を学ぶプログラムを実施 (R 7 年度は実績なし)

■脱炭素社会に向けた取組

- ・VC も含め当協会全体として、施設の使用電力について再エネ電力への切り替えを行ったほか、VC では照明の LED 化や EV の導入等により炭素排出量を削減

■丹沢をとりまく多様な主体との連携

- ・地元自治体等の公的機関やボランティア等の丹沢で活動する団体等のみならず、

連携

■協会運営における SDGs の取組

○労働環境の整備

- ・働きやすい労働環境を整備しワーク・ライフ・バランスの実現の取組

○障がい者雇用

- ・当協会における障がい者雇用の促進はもとより、障がい者就労施設への積極的な業務発注等に努め、障がい者の就労を支援

○ジェンダー平等

- ・意欲と能力のある女性の積極的登用のほか、男女を問わず育児休暇等の積極的な取得を職員に促し、男女共同参画の取組を推進

○透明性の高い法人経営

・「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等に基づき、公益法人として透明性の高い法人経営

10 事故・不祥事への対応、個人情報保護

(1) 募集開始の日から起算して過去3年間の重大な事故又は不祥事の有無並びに事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況

該当なし

(2) 個人情報保護についての方針・体制、職員に対する教育・研修体制及び個人情報の取扱いの状況

ア 個人情報保護のための方針・体制

(イ) 個人情報保護のための体制

(ウ) 個人情報保護のための諸規定の整備

イ 職員に対する教育・研修体制

ウ 個人情報の取扱いの状況

11 これまでの実績

提案書参照

12 その他

(1) 丹沢再生への貢献

ア 公益法人としての取組

■丹沢大山自然再生委員会への参画

- ・県民事業専門部会の委員として、自然再生事業の普及啓発活動(ワールドフェスタ・ヨコハマや秦野丹沢まつりへの出展等)を実施
- ・丹沢大山自然再生活動報告会への参加
- ・活動の資金となる会費負担(当協会自主財源による)
- ・県民事業専門部会のなかに設置された普及啓発検討チームにチーム長として参画

■丹沢大山自然再生事業に関連する県民協働事業への参画

- ・植樹活動などを行い、企業 CSR の場にもなっている「丹沢の緑を育む集い」の委員として、広報や植樹活動に参加
- ・ゴミ持ち帰り運動の推進等を行っている「丹沢クリーンピア 21」の委員として、広報、清掃活動への参加をするとともに、活動の資金となる会費を負担(当協会自主財源による)

イ 指定管理者としての取組

